



Il Nono Concerto di DolceAmaro
DE' MADRIGALI di
BARBARA STROZZI
ovvero

SAFFO NOVELLA

ドルチェアマロ第9回公演
バルバラ・ストロツィ
の マドリガーレ あるいは
サッフォーの再来

DolceAmaro

il complesso madrigalesco

Soprano Yuko Morikawa, Yumiko Mori

Alto Marino Yokose

Tenore Yasuaki Ichikawa, Yasunori Nakamura

Basso Daiske Abe

Viola da gamba Asami Orihara

Clavicembalo Fumie Tsuji

Commento su B. Strozzi a cura di Naomi Sasaki

【お問合せ】

✉ dolceamarotokyo@gmail.com @DolceAmaroTokyo

<https://www.facebook.com/DolceAmaroTokyo>

<https://www.dolceamarotokyo.com/>

0493-888-777 (事務局)

主催：DolceAmaro

助成：公益財団法人東京都歴史文化財団

アーツカウンシル東京【東京ライブ・ステージ応援助成】



9月30日

19:00 開演 18:30 開場

豊洲シビックセンターホール

(有楽町線「豊洲」駅 7番出口 徒歩1分、ゆりかもめ「豊洲」駅 改札フロア直結)

一般：¥4,000 (学生半額)

ペア：¥7,000

【ご予約】 Tiget: <https://tiget.net/events/376132>

Website: <https://www.dolceamarotokyo.com/>

E-mail: dolceamarotokyo@gmail.com

Tel/Fax: 0493-888-777 (事務局)



Tiget

Website



後援：イタリア文化会館

日本イタリア古楽協会

東京藝術大学音楽学部同声会





マドリガーレが消えゆく時代に生まれた、“新たなるサッフォー”のマドリガーレ集

1637年には世界初のオペラ劇場が誕生し、マドリガーレはオペラの台頭と反比例してその出版数を減らしていく時代。プレスコバルディが、モンテヴェルディが亡くなった翌年、その年唯一出版されたマドリガーレ集は、若干25歳の新進気鋭の作曲家の曲集だった。その作曲家の名はバルバラ・ストロツィ。2声から5声の様々な編成により構成された25曲、その全てが彼女の父であり、台本作家でもあったジュリオ・ストロツィの詩によるものである。父のアカデミーでも盛んに自身の作品を歌い演奏していたというストロツィの作品は、その若さ故の大胆さに溢れつつ、女性的と言えるほどの繊細さも併せ持つ、魅力的な作品ばかり。

本公演では通奏低音に、多彩なストロツィの音楽に対応すべく、チェンバロに加えヴィオラ・ダ・ガンバを採用、またプログラム解説には、ストロツィの研究者としても名高い、シチリア在住の佐々木なおみ氏に執筆をお願いした。解説・器楽・歌・音楽、その全てに魅了されること間違い無しのこの公演、是非、お見逃しなく！



折原 麻美 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

国立音楽大学音楽学部音楽文化デザイン学科(音楽学)卒、有馬賞受賞。在学中よりヴィオラ・ダ・ガンバを始め、神戸榎樹美氏に師事。2010年よりブリュッセル王立音楽院にてフィリップ・ピエロ氏に師事。2016年、修士課程を優秀賞付きで修了し、翌年、研究科を修了。ベルギー国営ラジオ局 RTBF 主催のムジーク・トロワ祭、ユトレヒト国際古楽音楽祭等ヨーロッパの主要な音楽祭に出演する他、所属する AYAME アンサンブル・バロック、Lux Beata 等で数々の招聘演奏を行う。2018年に帰国、ソロ・リサイタルを開催。金井隆之氏とのデュオ・ルーリーが墨田区主催2019年度「演奏家の船出コンサート」グランプリを受賞。ルネサンス〜バロック音楽を中心に、世界各地の民謡、舞曲、童謡等ジャンルにこだわらず楽器の魅力を発信。アイゼナハ音楽院講師。
www.oriharaasami.com

辻 文栄 (チェンバロ)

上野学園大学音楽学部オルガン専門卒業、イタリア・コモ国立音楽院修士課程チェンバロ科を満点の成績でディプロマを取得し卒業、同音楽院にてオルガンの1年コース修了。イタリア各地でチェンバロ、オルガン演奏し、2019年ウルビーノ古楽講習会にてアシスタント通奏低音奏者を務める。チェンバロ・リサイタル・シリーズ「イタリア古楽花伝」を東京・葉山・名古屋・神戸などで2020年より毎年行っている。2022年チェンバロ・ソロ・アルバム「イタリア古楽花伝」(朝日新聞 推薦盤、レコード芸術 準特選盤、音楽現代 推薦盤、Stereo 優秀録音盤)を発売。現在、桜美林大学芸術化学群非常勤講師、「辻康介と葉山古楽婦人会」メンバー。チェンバロを G.Togni、渡邊順生、戸崎廣乃、辰巳美納子、上尾直毅、オルガンを小林英之、E. Viccardi、室内楽を P. Beschi の各氏に師事。日本チェンバロ協会、日本オルガニスト協会両会員。



©yOU(YukoKawasaki)



佐々木 なおみ (B. ストロツィの解説)

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。イタリア各地の図書館と古文書館で史料調査を行い、A. チェスティのカンタータに関する研究で博士号取得。2019年より、イタリア・バロック音楽の研究と演奏を融合させた古楽グループ「ディスコルシムジカリー」を主宰する。イタリア・バロック音楽の知られざる側面に光を当てていくことを目的に、主宰コンサートや講演会などを積極的に展開している。

日本学術振興会特別研究員、上野学園大学非常勤講師、イタリア国立カターニア大学講師を経て現在、日本イタリア古楽協会運営委員。共著に『女性作曲家列伝』(平凡社)、『イタリアのオペラと歌曲を知る12章』、『オペラ事典』(共に東京堂出版)、『イタリア歌曲の詩と音楽の魅力』(全音楽譜出版社)、『古楽の事典』(朝倉書店より刊行予定)がある。

DolceAmaro (ドルチェアマロ)

16, 17世紀イタリアの「マドリガーレ」を専門に歌う声楽アンサンブル。「マドリガーレ」という音楽の中に脈打つアップベット、相反する感情の交差、人の心の悲喜交々、誰の心の奥にも眠っている情熱を感じ、表現し、またそれを聴く皆様の中にも呼び起こす。そんな音楽をしたいとの思いから、DolceAmaro (伊dolceamaro = 甘くて苦い)と名付けた。作曲当時に使われていたオリジナルの印刷譜を使用し、「シのない」6音のソルミゼーションを用いて読譜を行う、また当時の数々の作曲家が言葉に残しているように、「言葉が音楽の主人である」ことを念頭に置く事で、当時の音楽家たちが感じ目指していたであろう音楽を再現する。

SOPRANO



森 有美子



森川 郁子

ALTO



横瀬 まりの

TENORE



市川 泰明



中村 康紀

BASSO



阿部 大輔